

# 疲労倦怠・食欲不振を訴えた症例に対する 人參養榮湯の検討

医療法人財団額田記念会 額田記念病院 整形外科(神奈川県) 漆原 信夫

高齢者の診察において、各種の精査を行っても異常を認めないものの、体重減少や易疲労感を訴える患者を経験することが多い。そこで、疲労倦怠や食欲不振を訴えた患者に対する人參養榮湯の有用性を検討したところ、いずれも有意な改善が認められたので、症例提示も含めて報告する。

**Keywords** 人參養榮湯、高齢者の疲労倦怠・食欲不振

## はじめに

外来で高齢者の診察を行うと、特別な食事療法や運動療法を行っていないにもかかわらず、徐々に体重が減ってきたり、疲れ易さや体力の衰えを訴える患者を経験することが多い。体重減少や易疲労感の原因特定のため、薬物による副作用の有無や、がん、甲状腺機能低下、心不全、うつ状態の有無などの精査を行うが、異常を認めないことがある。このような場合、患者は、加齢に伴うさまざまな機能変化や生理的な予備能力の低下によって健康障害を招きやすい状態に陥っていると考えられ、生理的な老化と区別して、適切な介入を行うべき対象と認識することが必要である。

人參養榮湯は、疲労倦怠、食欲不振、体力低下などの効能・効果を有しており、気力・体力の低下した状態に用いられることから、高齢者に使用されることも多い漢方薬である。そこで今回、疲労倦怠や食欲不振を訴えた患者に人參養榮湯を用い、その有用性について検討した。

## 対象と方法

当院を受診し、疲労倦怠感や食欲不振を訴え症状の改善を希望した患者のうち、本調査への参加に同意を得られた17例(男性:5例、女性:12例、平均年齢:82.5±6.5歳)を対象とし、対象患者にクラシエ人參養榮湯エキス細粒(KB-108、7.5g/日・分2 以下人參養榮湯)を投与した。調査方法として、本剤投与前、投与2週後、4週後、8週後に、疲労倦怠と食欲不振を、想像できる最悪の状態を10、症状なしを0として、VAS(Visual Analogue Scale)にて評価した。また、人參養榮湯の有効性を確認する上での補完的な方法として、基本チェックリスト(厚生労働省老健局老人保健課作成)を用いた。この基本チェックリストは

介護予防事業において要介護状態に陥るおそれの有無の判定に用いられる質問票であり、25の質問から構成されている。これらの質問に「はい」か「いいえ」で回答し、回答のうちリスクに該当する項目について1点を加点する。今回は、栄養(質問11~12)を除いた各項目について、投与前、投与8週後で検討を行った。

## 結果

### 疲労倦怠と食欲不振(VAS)(図1)

疲労倦怠のVASは投与前と比較し、2週後、4週後、8週後、食欲不振も投与前と比較し、2週後、4週後、8週後に有意な改善が認められた。

### 基本チェックリスト(図2)

各項目の平均スコア値を示した。スコアの平均は、日常生活関連動作(質問1~5)、運動機能(質問6~10)、閉じこもり・認知機能(質問16~20)、こころ(質問21~25)で投与前と比較し8週後で有意な減少がみられた。口腔機能(質問13~15)については有意差はなかった。

## 症例提示

### 〈症例1. 79歳 女性〉

**【主 訴】** 両側下腿のしびれ、糖尿病、痔、疲労倦怠、食欲不振、不眠

**【経 過】** X年10月初診。疲労倦怠、食欲不振の改善を目的として、人參養榮湯を処方した。3週後の再診時、疲労倦怠はVASで初診時10から3、食欲不振はVASで初診時10から0と改善し、「すごく元気になった」という。さらに11週後の再診時には、「抑うつ気分も改善され、よく眠れるようになった」という。

〈症例2. 82歳 女性〉

【主 訴】 腰痛、左膝関節痛、糖尿病、骨粗鬆症、食欲不振、体重低下

【経 過】 X年10月初診。食欲不振の改善を目的として、人參養栄湯を処方した。3週後の再診時には、食欲不振がVASで初診時5から0となり、「お腹がすいてきた」という。また、人參養栄湯の服用を開始して1週間で「歩行が楽に

なった」「元気がでた」と実感したとのこと。さらに、初診時の「あまり動きたくない」との訴えが「外出してみたい」に変化していた。8週後の再診時には、「動けるようになった、体重がもとにもどった」という。人參養栄湯を服用して5週間で「家の中で動くようになった」「料理をつくるようになった」と話をしてくれた。12週後の再診時には、人參養栄湯の処方前にあった手足の冷たさが気にならなくなったという。

図1 人參養栄湯投与後の疲労倦怠、食欲不振の推移

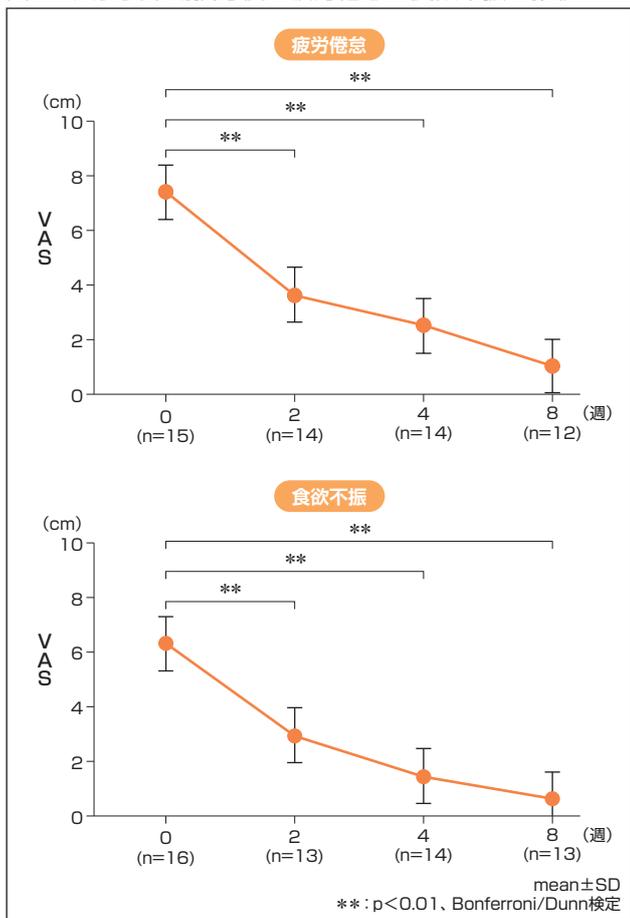
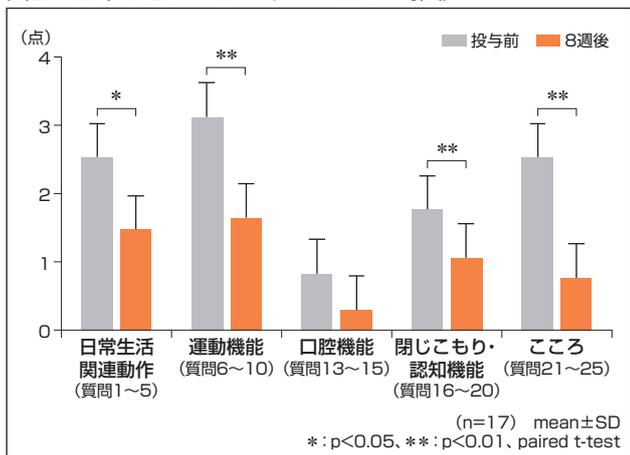


図2 基本チェックリスト スコアの推移



〈症例3. 81歳 男性〉

【主 訴】 腰部脊柱管狭窄、アルツハイマー病、骨粗鬆症、腰椎圧迫骨折、食欲不振、ふらふら感

【経 過】 X年9月初診。食欲不振とふらふら感を訴えたため、人參養栄湯を処方した。2週後の再診時には、食欲不振はVASで初診時5から0となり、「人參養栄湯を服用して1週間には、やる気がでた」と話しをしてくれた。4週後の再診時には、「駅までバスに乗っていた夫が、駅まで歩くようになった」と夫人が話してくれた。

考 察

超高齢社会に突入したわが国では、65歳以上の高齢者が総人口の1/4以上を占めるに至っているばかりか、75歳以上の後期高齢者の割合も1/8以上を占めるに至っている。この高齢化はさらに進行し、2050年には後期高齢者の割合も1/4に到達することが予想されている。また高齢者の要介護者や要支援者は年々急速に増加しており、特に75歳以上でその割合が高くなっている<sup>1)</sup>。高齢者が要介護状態に至る過程では、健康状態から健康障害や生活機能障害を起こしやすい中段階的な過程を経ることが多く、この状態を日本老年医学会は「フレイル」と提唱している。フレイルとは、加齢に伴うさまざまな機能変化や予備能力の低下によって健康障害に対する脆弱性が増加した状態と理解され、身体的フレイル、精神心理的フレイル、社会的フレイルの3つに分類される<sup>2)</sup>。このフレイルに至る要因として、食欲低下等による栄養摂取量の低下や、それに続き活動度の減少、うつ、疲労度の増加等、機能低下の連鎖が挙げられる。要介護者の増加を防ぐためにはこの連鎖を断ち切ることが重要であり、今回、疲労倦怠や食欲不振を訴えた患者を対象に、人參養栄湯の投与を行った。その結果、疲労倦怠や食欲不振の改善がみられ、基本チェックリストを用いた調査でも、各項目で改善がみられた。特に、疲労倦怠や

食欲不振は、人参養栄湯の投与開始1週間以内に改善がみられた症例を多く経験しており、比較的早期から効果を示す印象がある。

人参養栄湯は12種類の生薬から構成される漢方薬であり、「和剤局方」では慢性的消耗状態での四肢のだるさや全身の痛み、腰背部痛や動悸、息切れ、抑うつ、味覚異常などの症状が適応となることが示されている<sup>3)</sup>。人参には抗うつ作用および抗疲労作用が報告されているほか<sup>4, 5)</sup>、人参養栄湯がグレリン応答NPY/AgRPニューロンを活性化して食欲を亢進し、摂食量を増加させることが報告されており<sup>6)</sup>、これらの作用が疲労倦怠や食欲不振の改善に寄与したものと考えられる。また、構成生薬の五味子には骨格筋のPGC-1 $\alpha$ を介した疲労回復作用が報告されているほか<sup>7)</sup>、向坂は人参養栄湯が筋力(握力)の増加に働き、加齢による筋肉量の低下を最小限に留めることを報告している<sup>8)</sup>。さらに、陳皮には抗不安作用<sup>9)</sup>、遠志には鎮静・催眠作用<sup>10)</sup>、白朮には抗うつ作用<sup>11)</sup>が報告されているほか、人参養栄湯がアパシー様モデルマウスにおけるアパシー症状を改善することが報告されており<sup>12)</sup>、これらが基本チェックリストにおける日常生活関連動作(質問1~5)、運動機能(質問6~10)、閉じこもり・認知機能(質問16~20)、こころ(質問21~25)の項目の改善に寄与したものと考えられる。これらの項目はフレイルにおける身体的、精神心理的、社会的側面を含んでいることから、人参養栄湯は、高齢者のフレイルに有効な薬剤として期待できると考えられる。今後はさらに症例数を増やし、探索していく予定である。

## 【参考文献】

- 1) 葛谷雅文: 超高齢社会におけるサルコペニアとフレイル. 日本内科学会雑誌 104: 2602-2607, 2015
- 2) 荒井秀典: フレイルの意義. 日本老年医学会雑誌 51: 497-501, 2014
- 3) 後山尚久(編): 方剤別 はじめての漢方100. 診断と治療社, 東京: 166, 2013
- 4) 安達浩司 ほか: 高麗人参エキスの中樞興奮および抑制作用. 第8回日本補完代替医療学会学術集会 抄録集: 86, 2005
- 5) 森元康夫 ほか: マウス疲労モデルにおけるキノリン酸の関与について-第2報 肉体運動負荷モデルでの検討-. 日本薬学会第129年会要旨集 4: 274, 2009
- 6) 矢田俊彦: 食欲不振・フレイルのメカニズムと漢方の効果. phil漢方 69: 4, 2018
- 7) Kim YJ, et al.: Omija fruit extract improves endurance and energy metabolism by upregulating PGC-1 $\alpha$  expression in the skeletal muscle of exercised rats. J Med Food 17: 28-35, 2014
- 8) 向坂直哉: フレイルに対する人参養栄湯の臨床検討. phil漢方 65: 19-21, 2017
- 9) 伊東 彩 ほか: 生薬陳皮の薬理作用-抗不安作用に関して-. phil漢方 46: 26-28, 2014
- 10) 雨谷 栄: 生薬の謎を解く薬理講座43 遠志. 漢方と最新治療 25: 195-196, 2016
- 11) 小林義典 ほか: 白朮精油の抗うつ作用. AROMA RESEARCH 6: 356-361, 2005
- 12) 山田ひろ ほか: 人参養栄湯はドパミンD<sub>2</sub>受容体を介して新規アパシー様モデルマウスにおける食欲不振ならびに巣作り行動を改善する. 薬理と治療 46: 207-216, 2018